

(1) 実施機関名：

東北大学災害科学国際研究所

(2) 研究課題（または観測項目）名：

（和文）東北地方を中心とする歴史災害の文献・絵図史料収集および地形復原による分析
（英文）Analysis of historical disasters through topographic reconstructions from historical documents and pictorial maps in the Northeast region.

(3) 関連の深い建議の項目：

1 地震・火山現象の解明のための研究

- (1) 史料・考古・地形・地質データ等の収集と解析・統合
ア. 史料の収集・分析とデータベース化

(4) その他関連する建議の項目：

1 地震・火山現象の解明のための研究

- (1) 史料・考古・地形・地質データ等の収集と解析・統合
ウ. 地形・地質データの収集・集成と文理融合による解釈

(5) 本課題の5か年の到達目標：

「災害の軽減に貢献するための地震火山観測研究計画（第3次）」では、東北地方全域をフィールドとして地震・津波・火山に関係する文献・絵図といった歴史資料について、博物館・図書館に収蔵される史料のほか、民間所在史料についても調査・整理を実施しながら調査・分析を進める。これにあたり、新出史料はもちろん、従来の研究で分析対象となった史料についても、史料の全体情報や該当する文書群全体の周辺情報を含めて史料情報を収集する。また歴史地形の復元については、旧版地形図をベースとしながら、各地に存在する大判の地籍図・村絵図なども調査対象として、超高精細スキャンなどを活用しながら情報を収集することにする。これらの方法で収集した情報を整理・分析し、千島海溝・日本海溝沿いにおける歴史地震・津波および日本海沿岸の歴史地震・津波に関する新たな視角からの分析を実施する。

(6) 本課題の5か年計画の概要：

本課題においては、東北地方各地で年次ごとにフィールドを設定し、対象地域の博物館・図書館の所蔵史料を手がかりとして現地調査を実施し、文献史料・絵図史料の情報を収集するとともに、各地の代表的な地震・津波・火山などの歴史災害について研究分析を実施する。

令和6年度は宮城県を中心に史料情報を収集し、1611年慶長奥州地震津波や1793年寛政地震津波などについての分析をおこなう。

令和7年度は岩手県を中心に史料情報を収集し、1677年延宝八戸沖地震や1896年明治三陸地震などの分析をおこなう。

令和8年度は福島県を中心に史料情報を収集し、1677年延宝房総沖地震などの分析をおこなう。

令和9年度は秋田県・山形県を中心に史料情報を収集し、1804年象潟地震などの分析をおこなう。

令和10年度は青森県を中心に史料情報を収集し、1793年寛政西津軽地震などを分析するとともに、5か年の研究成果を総括し、シンポジウムあるいは報告書等で成果の社会還元をおこなう。

(7) 令和7年度の成果の概要：

- ・今年度の成果の概要

令和7年度は1896年明治三陸地震津波を踏査した山奈宗真を中心に、遠野市立博物館所蔵の山奈宗真資料の調査撮影や、当時の新聞記事や『山奈宗真略伝』といった周辺資料の情報を含めた分析をおこなった。山奈宗真は、明治維新以降、地域の困窮を打開するための様々な開発事業・教育活動のほか、遠野南部家旧臣としての事業などに従事していた。明治三陸地震津波の被災地踏査において山奈が単なる被災状況の調査ではなく、被災地の経済状況や歴史・文化にまで及ぶ多様な調査を実施したのは、彼自身の経歴が背景になっていたといえよう、一方で、山奈の調査と同時並行で岩手県でも被災地の調査や「授産」事業を進めており、両者の調査目的には乖離が生じていたものと考えられる。

また、本年度は1793年寛政地震津波の新たな歴史情報の収集をおこなった。宮城県石巻市名振浜の永沼家文書は、2011年の津波によって原史料は失われたが、そのデジタルデータの中から、寛政5年地震津波の際の建物被害と、人馬への被害が無かった旨を記した大肝入宛文書が確認された。また、既刊史料集の中で従来の地震史料集に未掲載の記事として、岩手県野田村の「永暦大雑書」、宮城県石巻市「長国寺年代記」、仙台市青葉区（旧宮城町）の「諏訪神社筒粥記」、角田市の「本町無常講記録」、山形県河北町の「大町念仏講」に寛政地震津波の地震動に関する記述が確認された。また、青森県八戸市『遠山日記』の複写本を確認し、従来の史料集における解読の誤りを確認した。

この他、直接的な地震史料の調査ではないが、文化遺産の位置情報と各種災害情報を重ね合わせた文化遺産防災マップの手法を応用し、GIS上で東北地方の個別の文化遺産に対する災害リスクを可視化、データベース化する作業を継続的に進めている。

・「関連の深い建議の項目」の目的達成への貢献の状況と、「災害の軽減に貢献する」という目標に対する当該研究成果の位置づけと今後の展望

今年度は、当初目的としていた岩手県の歴史地震情報の収集として山奈宗真資料を対象に史料撮影と分析を網羅的に実施し、従来は検討される機会の少なかった明治三陸地震津波踏査の周辺資料を対象に含めた分析をおこなった。また寛政地震津波について、岩手県以外の地域からも新たな史料情報を得ることができた。ただし当初予定していた1677年八戸沖地震津波については、史料の残存数が極めて少ない状況もあり、新たな史料情報の発見には至らなかったが、今後とも継続して調査を実施する予定である。また、これらの歴史情報を活用した文理融合的な研究展開についても今後の課題としたい。

GISを活用した文化遺産防災については、これらを可視化した文化遺産防災マップを活用した文化遺産防災訓練を自治体とともに実施し、災害時の文化遺産レスキューへの備えに資することにする。

(8) 令和7年度の成果に関連の深いもので、令和7年度に公表された主な成果物（論文・報告書等）：

・論文・報告書等

・学会・シンポジウム等での発表

蝦名裕一, 2025, 山奈宗真の明治三陸地震における沿岸調査について, 第42回歴史地震研究会豊岡大会, O-27

佐々木淳, 2025, 寛政五年一月七日（1793年2月17日）の地震津波にかかる史料について, 第42回歴史地震研究会豊岡大会, O-28

(9) 令和7年度に実施した調査・観測や開発したソフトウェア等のメタ情報：

(10) 令和8年度実施計画の概要：

令和8年度は、主として福島県をフィールドとした歴史地震津波の情報収集と分析を実施する。特に1677年延宝房総沖地震津波をはじめ、1611年の慶長会津地震や慶長奥州地震津波、1793年寛政地震津波などの歴史地震津波について、磐城平藩・会津藩・相馬中村藩などの藩政史料や地域史料を中心に情報収集を実施する予定である。

(11) 実施機関の参加者氏名または部署等名：

蝦名裕一（東北大学災害科学国際研究所）
他機関との共同研究の有無：無

(12) 公開時にホームページに掲載する問い合わせ先

部署名等：東北大学災害科学国際研究所

電話：

e-mail：

URL：https://irides.tohoku.ac.jp/organization/ebina_yuichi.html

(13) この研究課題（または観測項目）の連絡担当者

氏名：蝦名裕一

所属：東北大学災害科学国際研究所